

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 5 0 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部こども青少年課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 1 (直通)				
開催日時		平成 2 9 年 1 月 1 2 日 (木) 午後 7 時から 7 時 5 0 分まで				
開催場所		けやき会館 2 階 大研修室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 1 人 (こども育成部長、他 1 0 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 こども育成部長あいさつ 3 議 題 (1) 小規模保育事業所の認可について 4 そ の 他 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 こども育成部長あいさつ

3 議題

(1) 小規模保育事業所の認可について

資料に基づき担当課から説明し、質疑の後、了承された。

幼稚園の敷地内には小規模保育事業所を設置することができないと思っていたが、それは変わったのか。

従来の幼稚園は幼稚園として認可をされているので、他の用途での使用については制限があったが、昨年の4月に国の基準が緩和され、幼稚園の空きスペースについては小規模保育事業所を設置することが可能になった。

国の基準が緩和され、相模原市も設置を認めたということか。

来年度以降も同様に進めることができるかどうかは、今回の事例を踏まえた中で検討を進めていきたいと考えている。

小規模保育事業所の設置ではなく、幼保連携型認定こども園を設置するという考え方はなかったのか。

当然、幼保連携型認定こども園という選択肢もあるが、幼稚園の中には幼保連携型認定こども園への移行にためらいもあり、幼稚園型認定こども園又は幼稚園を運営しながら、0歳から2歳までの子どもを預かることを希望している園もあるので、今回、選択肢が広がるように案内をさせていただいた。

今回の小規模保育事業所は、新規での実施や認定保育室からの移行であるが、その理由はどのようなことなのか。

(仮称) ナーサリースクールN I J I は、幼稚園を運営している法人であるが、幼稚園の対象年齢以下の子どもについて、現在、幼稚園に通っている保護者の要望や地域の需要に応えたいということを伺っている。(仮称) すみれK I D S 園は、認可化に伴い、施設や保育内容の充実を図るとともに、現在、小規模保育事業所が少ない小田急相模原駅周辺の保育需要にも対応していきたいということを伺っている。

(仮称) すみれK I D S 園は、最低基準上の保育士数が5名のところ、11名の配置となっているが理由はあるのか。

現在、認定保育室を運営しているが、すでに常勤の保育士が8名おり、小規模保育事業所への移行のため、さらに2名の常勤保育士の採用を予定している。常勤保育士は合計

で10名となり、最低基準に比較してかなり多い保育士の配置になっている。

未就学児のニーズに対応するため、幼保連携型認定こども園などの設置に関して行政としての考えはあるのか。

市としては0歳と1歳の枠を増やしていきたいため、0歳の枠を確保していただくことを前提に、従前の幼稚園が敷地内で小規模保育事業所を運営することは当面認めていく。今後、各幼稚園が認定こども園にどのように移行していくかということや保育需要に関する必要性の部分の調整が必要であると思っている。幼稚園は保育に関する経験が今までにないため、巡回支援などをしっかり考えていきたい。

小規模保育事業所から3歳児が連携施設に移る時に問題はないか。

保育を希望する3歳児については、昨年度も認可保育所や幼稚園などに御協力をいただいた中で、すべて引き受けていただいている。今年度も一般の募集より早めに各保護者に意向調査を行い、それに基づき3歳の受け入れ人数について園と調整を行っている。基本的には、一度認可事業で預かった子どもについては、5歳まで責任を持って保育をしていくということで、3歳になって行く場所がないということにはならないようにしなければいけないと思っている。

これだけ小規模保育事業所などが増えて行く中で、保育士不足のために定員まで受け入れができないような施設は市内にあるのか。

現状ではない。

逆に定員より超過して受け入れている割合は、市内ではどのようになっているのか。

超過の限度は2割である。現状もそれに近い状況で、定員超過は年度途中から入る子どもを考慮したものだが、4月の申込数が多い中ではそこを含めて入所の決定をさせていただいている。ただし、保育士が足りないとそれは出来ないので、保育士が足りている状況の中で、そのような対応をとっているのがここ数年の実態である。

4月でいっぱいになってしまうと、途中から職場復帰する方たちは大変厳しい状況になるので、超過の扱いについてはそのような方たちへの便宜性につながるような働きかけはお願いしたいと思う。

兄弟の入所など様々な事情があるので、個々の園と調整をしながら進めている状況である。

苦情への対応についてはマニュアル化しているのか。

各運営法人に関しては、基本的には苦情対応マニュアルを作成していただいているが、市がひな形を示し、それをベースに各運営法人でマニュアル化すれば理想的であるので、今後、検討していきたいと考えている。

4 その他

- ・事務局より、今年度の本分科会の開催は最後となるが、審議をいただきたい案件が生じた場合は、開催をさせていただくこととした。

5 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成29年1月12日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠席
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	かわさき ひさし 川崎 永	相模原市幼稚園協会		欠席
5	ひらの ひろこ 平野 裕子	相模原市母子寡婦福祉協議会		出席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科会長	出席
7	ふくだ すみこ 福田 須美子	相模女子大学名誉教授	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
10	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		欠席
11	いしざか みちこ 石坂 美智子	相模原市立小学校長会		出席
12	あしざわ すすむ 芦沢 進	相模原市立中学校長会		出席